押田麻衣
能作研究室

ウチワほいく

敷地：大田区西馬込
用途：共同保育所

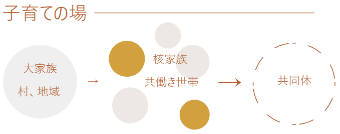
人は仲間をつくるように、保育も群れて支えあい、共同体の中で行っていくことが必要である。保育所をかつてのムラに代わる媒体の手段であるととらえ、保育のメンバーシップを形成をめざす。

1 SITE

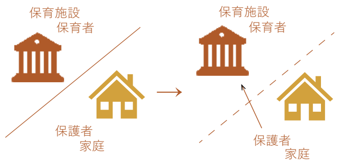
かつては田んぼや畑が広がり、「馬込半白胡瓜」や「馬込太夫三寸人参」など地名のついた野菜の栽培や販売をも行っていた。しかし、耕地整理の影響で昭和４年に道路が整備され、車社会へと変化していった。また、大田区内を流れる内川が埋め立てられ、敷地隣を暗渠が流れている。

2 SIGNIFICANCE

子育ての場



遊び場



大家族や村全体など大きな単位で行われていた子育ての場は孤立化し、保育施設と家庭のあいだにも境界がうまれてきた。

しかし､本来”群れ”て､”支え”会い､”学び”ながら行う保育は、仲間をつくり共同体の中で行うべきである。また、保育施設と家庭、さらに地域との境界の曖昧化を理想とする。

3 PROGRAM

◉保護者が保育に参加

保護者が日々の保育に参加している他に、運営会議やイベントの企画運営、広報活動な施設の運営にも関わっている。

◉街が遊び場

十分な広さの園庭を持っていないため、近くの公園や路地などで遊びを行う。運動会やバザーなどのイベントも公園や区民館を使用。

◉毎日の散歩、毎週の遠足

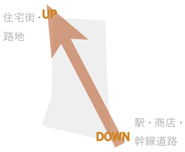
毎日午前中に施設外にお散歩に出掛ける。階段や看板、道路タイルなど、環境に埋め込まれた要素を使って遊びを発見している。週に１度は電車やバスを使い遠くまで遠足に出かける。行先や経路は子どもたちと一緒にその場で決める。

4 COMMONS

これらはオープンアクセスではなく管理対象を定めることで共同管理が実現していくコモンズである。物質的資源と保育という無形のコモンの２種類を定義する。

5 STRATEGY

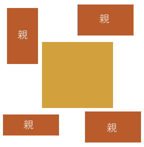
1 集まりの場所の計画



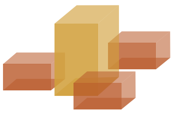
南側：駅や商店が存在し、幹線道路が通っている車社会の賑わいのまち
北側：住宅街に細い路地や袋小路がのびる内輪性

メンバーシップの集う場所となる”基地”を敷地北側メンバーシップの拠点となる” 基地” を配置
内輪の活動を外に発信するまちへの” 顔” を南側に面する道路に向けて配置

ある程度多数の人数が集まる場所となるのは、中心性のある大空間である



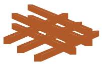
集いの場（保育室）の周辺に、保護者や OB・OG の場を配置。保育室に彼らが入り、外からもその様子が伺える



縦方向に差を出し、さらに中心性を高める

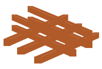
2 重ね梁

象徴



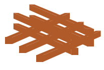
共同意識を持つために必要なシンボル性をもつ象徴としての役割

構造



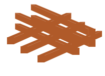
大空間を演出するための構造的役割
高低差に対応する束を支える構造的役割

空間

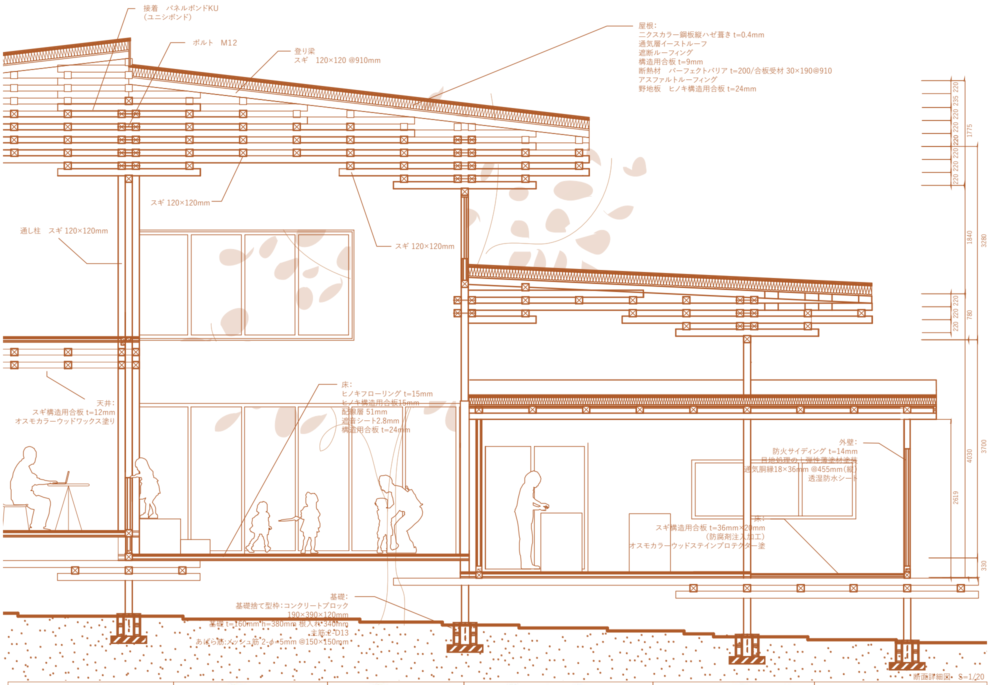


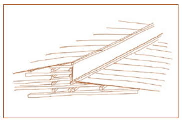
分厚い屋根に覆われることで安心感を得る。しかし光を遮断せず柔らかい空間がうまれる。

造形

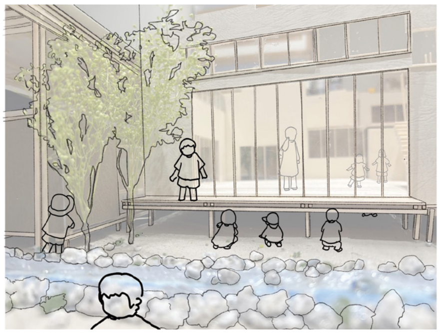


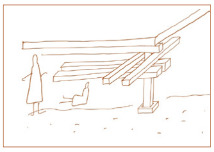
梁によって高さや厚さなどの空間の違いがうまれる。（曲線、勾配、高低差）



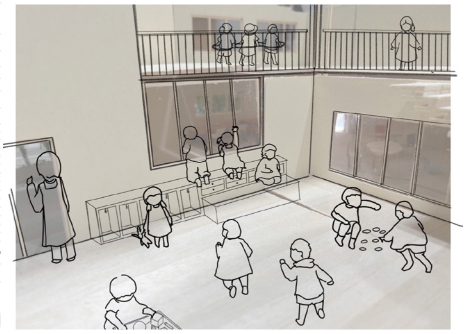


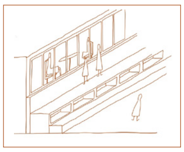
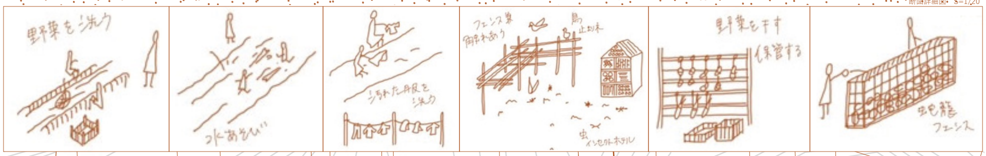
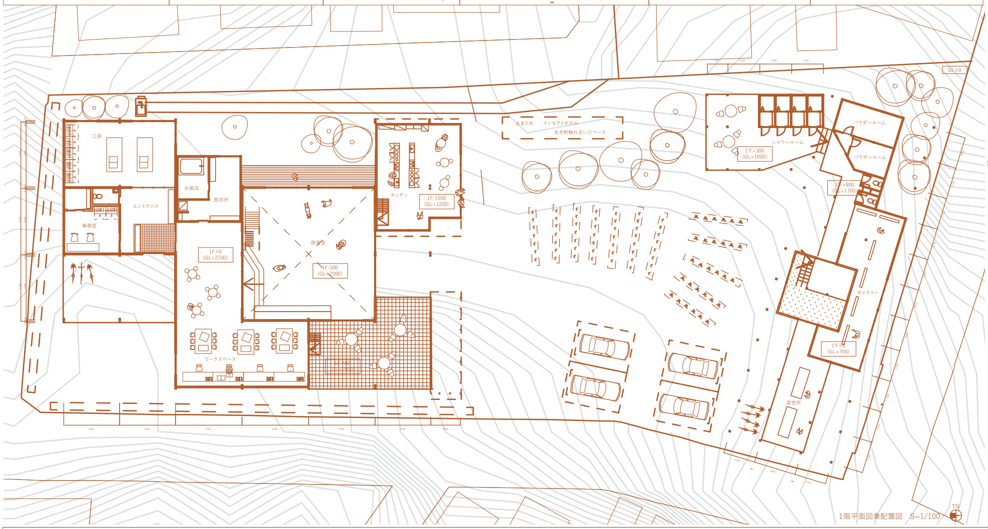
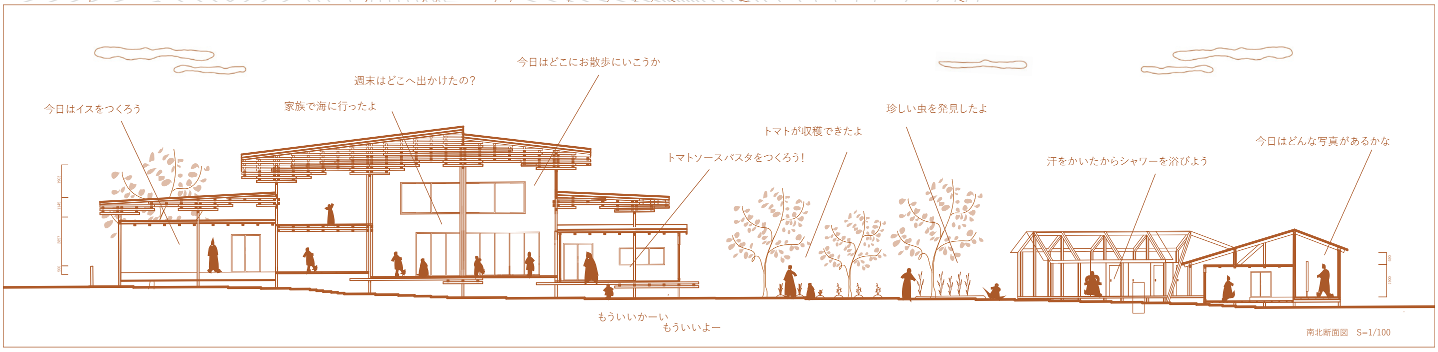
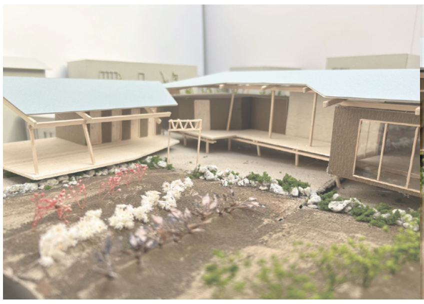
梁の重ね方を変化させ、梁から屋根までの高さに違いをつける。
生まれた差がハイサイドライトとなり、屋根の浮いた空間と木組み部分が天井照明のような明るい空間となる。





敷地内に勾配が見られるため、南側にかけて床下空間が広がる。束が長い部分は都度梁を挿入し、構造的な支えになると同時に床下に入り込んだ子供の遊びの要素となる。





保育所は、こどもが唯一親から離れる場所でもあり、こどもにとっての社会性をもつ。保育室のレベルを下げることによって、同じ空間に存在していながら子どもからの視線を遮る。ロッカーなどに上ることでワークスペースの様子を覗くことができる。